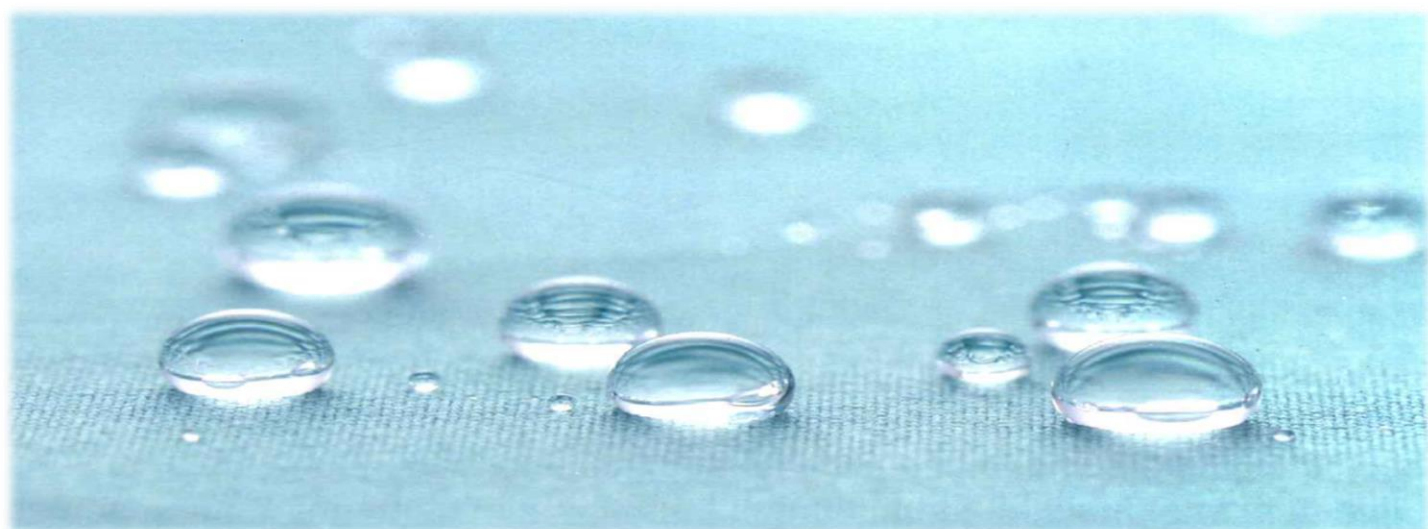


メディマツト[®]使用マニュアル



テックワン株式会社

1. はじめに	1
2. メディマットとは	2
メディマットの特徴	2
図1 体圧分散効果	3
図2 透湿性試験結果	4
図3 メディマットの構造および特性	5
3. メディマット導入のメリット	6
使用者のメリット	6
介護者のメリット	6
【コラム:介護労働による腰痛】	6
4. メディマット使用による褥そう瘡治療例および痛み軽減例	7
褥そう治療例	7
メディマットを褥そうの予防及び治療目的で使用する際のポイント	8
【コラム:褥そう発生のメカニズムと対策】	8
痛みの軽減	8
5. メディマット使用法	9
メディマット使用方法	9
メディマット使用上の注意	10
マットカバー取り扱い上の注意	10
ウレタンフォーム取り扱い上の注意	10
メディマット保管上の注意	11
メディマット使用対象者	11
6. メディマットに関する Q&A	12

1. はじめに

私たちは、使用する人にも介護する人にも喜んでもらえるマットレスづくりを目指してきました。課題として次のようなことが挙げられました。

使用者における課題:

長時間同じ姿勢でいるのはつらいことです。褥そう(床ずれ)ができることもあります。同じ姿勢を取り続けなければならない人にとって優しいマットレス、すなわち体圧を分散させ痛みを軽減する、汗でむれない環境を作ることができるマットレスは開発できないか。

介護者における課題:

介護は重労働で、腰痛も多く発生しています。介護する人が元気でなければ適切な介護はできません。介護をする人にとっても優しいマットレス、すなわち衛生処理が楽、維持管理が楽、体位変換の介助が楽なマットレスは開発できないか。

試行錯誤の結果、これらの課題をクリアしたマットレス「メディマット[®]」を開発致しました。

良い道具は正しく使われることでその性能を十二分に発揮します。

このマニュアルはメディマット[®]をよく理解していただき、正しく使用していただくために作成したものです。

メディマット[®]が一人でも多くの人の快適な暮らしに役立ち、介護によるストレスが少しでも軽減されることを願っております。

2. メディマット[®]とは

メディマット[®]の構成

メディマット[®]は、透湿性と防水性を兼ね備えたカバーと、体圧分散効果のあるウレタンフォームからなるマットレスです。

メディマット[®]の特徴

● 血流を止めない

メディマット[®]のウレタンフォームは優れた体圧分散効果をもち、局所の圧迫が軽減され良好な血液循環が保たれるので、褥そう(床ずれ)の予防と治療に適しています。(図1 参照)

● 局部が痛まない

また、優れた体圧分散効果による局所の圧迫軽減は、痛みを和らげる効果も期待できます。(図1 参照)

● 汗でムレない

メディマット[®]は汗などによる水蒸気をすばやく通すきわめて高い透湿性があり、長時間使用しても従来のマットレスのようにムレることはありません。褥そう等の患部を適度な湿度に保ちます。(図2、図3 参照)

● 液体がもれない

マットカバーには高い防水性があり、汚水・汚物・血液・薬液などがマットレス内部に浸入するのを防ぎます。(図3 参照)

● ばい菌を通さない

マットカバーはダニの糞や死骸、大腸菌などの細菌を通さない最高度のバリア性能を持っています。(図3 参照)

● カバーが汚れない

マットカバーは撥水性に優れているため、表面に汚れなどが付着しにくく、汚物等も簡単にアルコール等でふき取ることができます。(図3 参照)

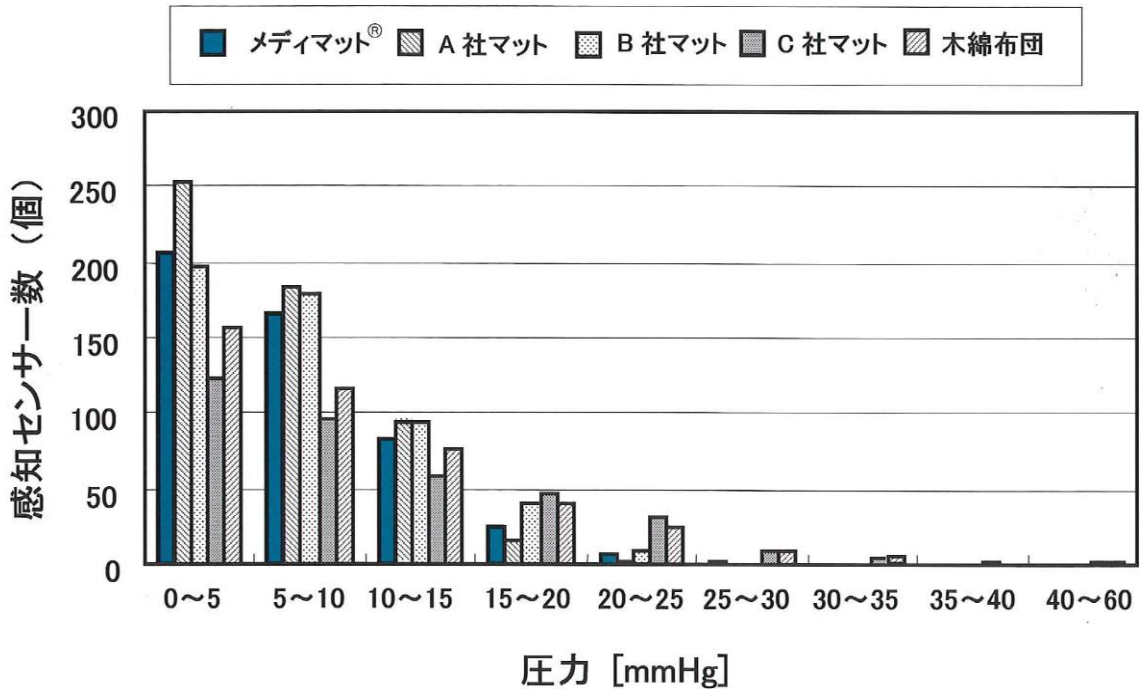
● 機能が低下しない

マットカバーは耐久性に優れているため、汚れた場合は何度でも洗えます。試験の結果100回洗濯しても防水やバリア機能の低下は認められませんでした。

● マットがへたらない

メディマット[®]はへたり難いウレタンフォームを使用しています。工業試験の結果、10回の洗濯後でも、硬さや寸法の変化はわずかで、亀裂等の発生も認められませんでした。

図1 体圧分散効果



24歳女性が仰臥位になった場合の臀部での圧力分布を図1に示しました。圧力範囲の低いところでセンサー数が多いければ体圧の分散がなされていると考えられます。ほとんどのマットレスで25mmHg以上の圧力は観察されなくなりますが、綿布団と一部のマットレスでは30mmHg以上の圧力も観察されます。

毛細血管圧の32mmHg以上の圧力が2時間以上継続して加わると褥そうができるといわれています。すなわち、メディマット®も含め、ほとんどのマットレスは一般に使用されている木綿布団に比べて体圧の分散効果があり、褥そう予防・治療に効果が期待できるといえます。図1の結果は24歳の女性被験者によるものですが、実際に高齢者でやせている人では、仙骨部、踵部などの圧力はさらに高くなると考えられます。実際、凸部を持つ剛体で実験したところによれば150mmHg以上の圧力も観察されました。

また、皮膚組織のずれなどがある場合には、20mmHgほどの圧力でも褥そうになるとも言われています。図1によるとメディマット®は、0~5、5~10、10~15mmHgの範囲でセンサー数(接触面積)が比較的少ない、すなわち比較的固めのマットレスであることがわかります。しかも15mmHg以上では急激に接触面積が少なくなっており、褥そう予防・治療に有効な特性をもつことがわかります。

さらにマットレスが固めであることは、身体が必要以上に沈み込まず体位変換などが楽に行えることを意味します。

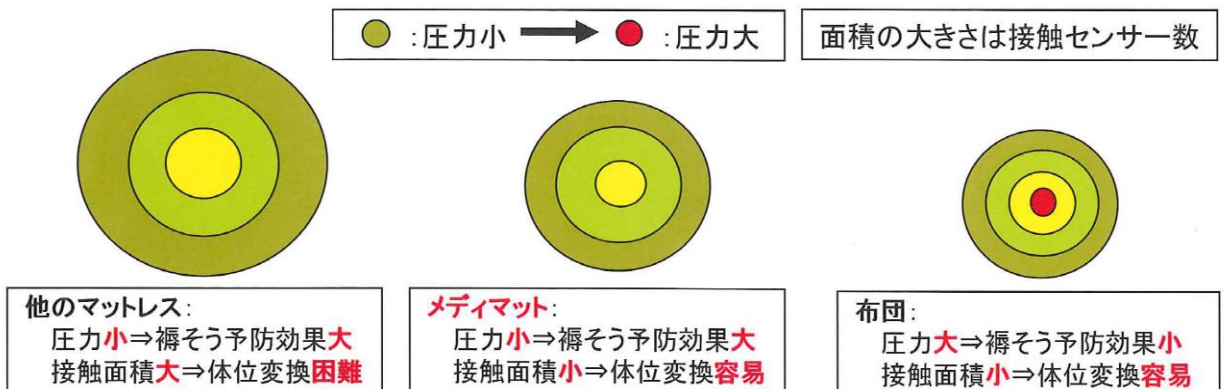
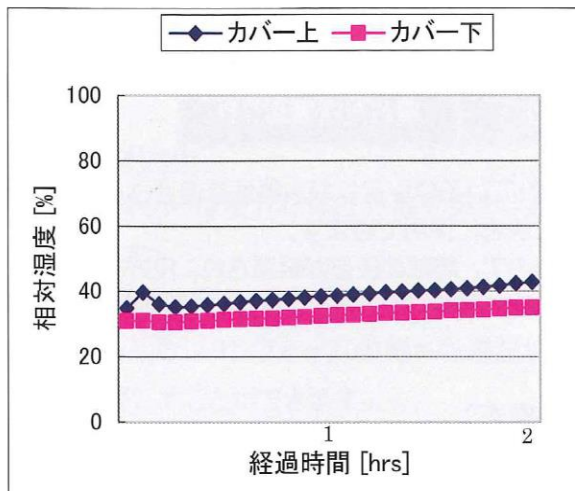
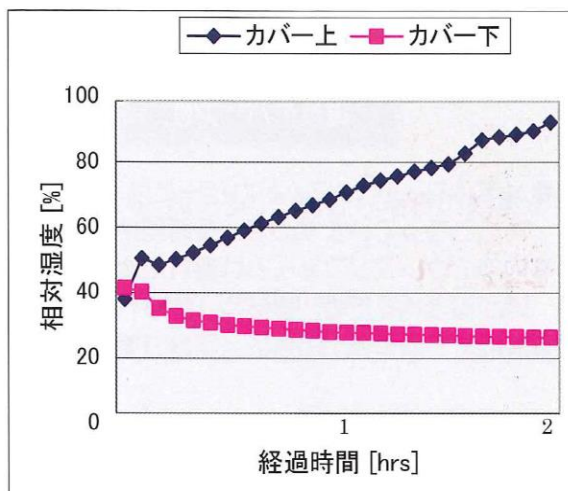


図2 透湿性試験結果

A—メディマツ®カバー上下での相対湿度変化



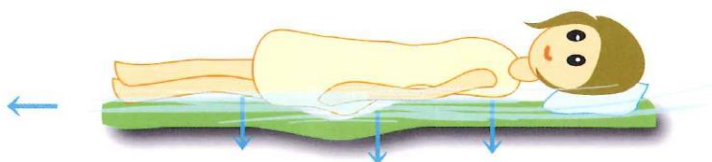
B—他マットレスカバー上下での相対湿度変化



透湿性の評価は、実際にマットレスの上に人が仰臥位で2時間横たわり、カバーの上下で温湿度を同時測定することで行いました。実験室における湿度変動(日間)は40%~60%でした。図2Aにメディマツ®、図2Bに他社マットレスでの経時的相対湿度変化を示します。

7名の被験者で同様の実験を行った結果、他社のマットレス3種類は図2Bと同様の傾向を示しました。また、木綿布団はメディマツ®と同様の傾向でした。図2A(メディマツ®)で湿度に大きな変化が見られないのはカバーが汗等による水分を透過させているためであり、一方、図2Bで時間とともにカバーの上下で湿度差が大きくなっているのは、カバーが水分を通さないためと考えられます。これはすなわち、メディマツ®や木綿布団では、寝ている人の体からでてくる水分(汗)がカバーを通して下方に抜け皮膚表面は適度な湿度に保たれるのに対し、他社のマットレスでは体からの水分が皮膚表面にとどまり過度の湿潤状態になりうることを意味します。

さらにメディマツ®ではウレタンフォームにも細孔があり、水分がカバーとウレタンフォームの間に滞留しないような構造になっています。



メディマツ
 体表からの汗が蒸気となってカバー及びマットレスを通過し、快適に過ごせる。



他のマットレス
 汗が下着とマットレスのカバーの間に滞留し、不快になることがある。

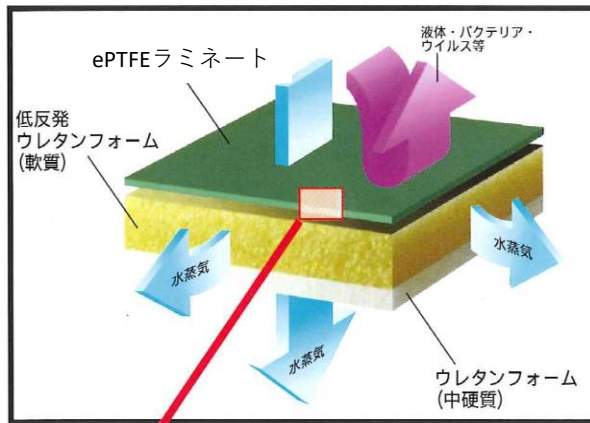
図3 メディマット®の構造及び特性

メディマット®の機能性

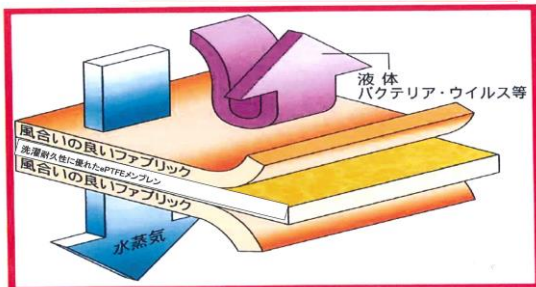
優れた体圧分散性	優れた透湿性	高い防水性
高度のバリア性	優れた撥水性	優れた洗濯耐久性

- メディマット®はマットカバーだけではなく、使用されているウレタンが水蒸気を通過させる特殊構造となっていますので、長時間使用してもムレずに快適に使用できます。
- 内部のウレタンフォームは優れた体圧分散効果をもつので、局所の圧迫が軽減され、良好な血液循環が保たれるため、褥瘡（床ずれ）の予防と改善、更に痛みの軽減効果も期待できます。
- 薄くても底着き感の無い、特殊二重構造です。

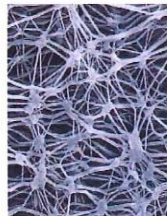
【メディマット®の構造】



【マットカバー構造】



ePTFEがもつ快適さの原点は「ePTFEメンブレン」と呼ばれる一枚の膜にあります。きわめて薄く、軽く、強いフィルム状の素材で、1平方センチあたり十数億個もの微細な孔（0.2ミクロン）をもっていて、ひとつの孔大きさは水滴の2万分の1で、水蒸気の700倍。ですから水は通さないのに、汗の水蒸気はすばやく通過させるのです。



ePTFEメンブレン表面の電顕写真

マットカバーに使用されているePTFEラミネートの特徴

- 高い防水性と優れた透湿性という相反する機能を併せ持つ高機能素材です。
- 生地表面には、耐久性に優れた撥水加工が施されています。この処理によって生地表面は汚れが付きにくくなっています。
- ダニのアレルゲンだけでなく、バクテリア(大腸菌)やウイルスなどの病原体を含む血液、体液も透しません。
- 洗濯の耐久性に優れており、繰り返し洗濯をしても、透湿性・防水性の機能低下は非常に小さいです。



ePTFEメンブレン

3. メディマット®導入のメリット

メディマット®は使用者に優しく、また介護者にも優しいマットレスで、両者にそれぞれ以下のようなメリットが考えられます。

使用者のメリット

- メディマット®は優れた体圧分散効果および透湿性効果により、褥そうの予防及び治療の効果が期待できます。
- 長時間の臥床あるいは座位での使用において、局所の痛み軽減の効果が期待できます。
- カバーやウレタンフォームの優れた透湿性により、発汗量の大きい方でもムレが少なく、長時間爽やかに過ごすことができます。
- 痛みの軽減や安定した姿勢保持等により安眠が期待できます。

介護者のメリット

- マットレスに透湿性があるため、下着・シーツ交換・汗拭きなどの作業回数が減少します。
- 優れた防水性・撥水性により汚れが付き難く、また容易に衛生処理ができることから、介護用品購入費や洗濯コストの削減ができます。防水シーツなどを使用する必要がありません。
- 伸縮性の小さいカバーと特殊ウレタンフォームの構成により、マットレス全体のタワミや沈込みが少ないので、患者の体位変換や移動、オムツ交換などの介護作業が楽に行えます。
- 患者の痛み軽減により、呼鈴回数の減少が期待できます。
- メディマット®は比較的軽量で、しかも折りたたむため、持ち運びや保管が楽です。

【コラム：介護労働による腰痛】

介護に携わっている人の7～8割は腰痛を経験しているといわれます。介護現場での腰痛対策は非常に重要な課題です。介護労働における腰痛の原因は「移動」の際の介助であることが知られています。「移動」にはベッドから歩行への移動、ベッドと車椅子間の移動、体位変換のための移動、シーツ等の交換のための移動、車椅子から便座への移動、ストレッチャーからベッドへの移動など多くのものがあり、その方法も介護者にかかる負担もさまざまです。

これまでに、腰痛職場といわれる重量物を扱う場所での経験から、腰痛対策はある程度確立されています。20kgを超えるような重量物を扱う場合には、ホイストなどの器具を用いる、一人では持ち上げない、腰の近くで作業ができるように環境を整備する、重量物を持って体をねじるような姿勢をとらないなどが基本的な対策です。

一方、介護労働の対象は「人」ですので、重量物のように簡単には取り扱えません。剛体ではない、つかまえにくい、意思がある、ベッドの高さが介護者の腰より低い、治療器具をつけているなど様々な「移動」介助を難しくする要素があります。

毎日の「移動」介助で腰痛にならないためのポイントとしては、できるだけ被介護者の力を利用する、移動を急がない、自力が期待できない人の移乗介助は2人以上で行う、腰の高さ及び腰の近くで力が出せるような姿勢をとる、移動用の器具を活用するなどがあります。

メディマット®は比較的硬くできているために、被介護者は移動の際自力で動き易く、また介護者は体位変換の介助が比較的楽に行えます。さらに、メディマット®は防水性、透湿性に優れているために、衛

生処理が楽で、身体の清拭回数も減少し、腰痛の原因ともなる介護者の中腰姿勢の頻度が少なくなることが期待されます。

4. メディマット®使用による褥そう(床ずれ)治療例および痛み軽減例

メディマット治療例

・ メディマットを使用して褥そうが治癒傾向を示した例を下に示します。



褥そうの治療は病巣の程度、患者さんの状態、病院の治療方針などにより異なりますので、個別に看護婦さんや主治医の先生の指示にしたがってください。

【褥そう予防のためのプロトコール例】

褥そうの予防にはさまざまな方法があります。ここではある病院で行われているプロトコールを基に、メディマットの使用で得られた経験を加味して一例を示します。

(1) 清潔ケア

- ・ 排泄において全面介助あるいは部分介助の患者については、1回／日必ず陰部洗浄を行う。
- ・ 医師の許可があれば、1回／週の入浴とその他の曜日でベッドバスを行う。

(2) オムツ交換

- ・ 定時では、9時、15時、20時、0時、5時に行う。
- ・ 排泄について意思表示があれば、そのつど行う。
- ・ オムツかぶれし易い場合は、サニーナ等を積極的に使用する。

(3) オムツの選択について

- ・ 基本的には、尿とりパットをオムツと組み合わせて使用する。
- ・ 紙オムツを使用する。また、オムツカバーは蒸れないものを選択する。
- ・ 夜間のオムツ交換が、睡眠を妨げるなど患者への影響が考えられる場合、あるいは1回排尿量が多い場合は、特定のオムツパットを使用する。

(4) 体位交換

- ・ オムツ交換時の他、12時(昼食前)、17時に行う。
- ・ 褥そうの発生が見られた場合や、かなりハイリスクである場合には、個別にプランをたてる。
- ・ 背抜きや30°ルールを徹底する。

(5) 予防具の使用について

- ・ 体圧分散効果のあるマットレスを使用する。
- ・ 蒸れが気になる場合にはメディマットを使用する。

(6) その他

- ・ 体の下にバスタオルを敷くことは、原則としてしない。

メディマット®を褥そうの予防及び治療目的で使用する際のポイント

- 通気性・透湿性のない防水シートと一緒に使用しない。
- 紙オムツ・尿取パッド・オムツカバー等を通気性・透湿性のあるものを使用し、オムツ交換を必要に応じて行う。
- マットカバーの表面を時々消毒用アルコール等で拭き良好な衛生状態を保つ。
- 体位変換を必要に応じて行う。
- スキンケアをこまめに行う。
- 血液循環を促進する必要がある場合、足の裏などに保温材などを使用する。

【コラム：褥そう発生のメカニズムと対策】

褥そうは骨の突出部(例えば、仙骨部、腸骨部、踵)など皮下組織の薄いところが長時間にわたり圧迫され、血流が阻まれることにより発生します。毛細血管圧の 32 mmHg 以上の圧力が 2 時間以上加わると褥そうができるといわれていますが、褥そうのできやすさ、治りにくさなどは基礎疾患や衛生状態、さらに栄養状態にも大きく左右されます。このため褥そう予防あるいは治療を目的として、寝たきりの人の体位変換を2時間ごとに行う、体圧を分散させるマットレスを使用する、オムツの交換を頻繁に行う、栄養状態の改善をはかる、などの対策が取られています。

これまでに多くの褥そう予防マットレスが開発され使用されてきましたが、それらのほとんどは主に体圧の分散効果に注目したものです。そして実際にこれらの体圧分散マットレスを使用しても、何らかの理由で褥そうができ、これが悪化あるいは治癒しない例が数多く報告されてきました。

私たちはさらに、創傷の治癒には湿度が重要な役割を果たすという点に着目し、体圧分散効果のみならず透湿性を兼ね備えたマットレス「メディマット®」を開発しました。

しかしマットレスはあくまでも補助的なものであることを忘れないでください。

優れたマットレスを使用したからといってそれだけで褥そうが治ることはありません。

褥そうの予防、治療には専門家による適切なケアが必要です。

痛みの軽減

また、メディマットの圧分散機能と透湿性は、局所的な痛みの軽減あるいは座位や臥床での快適性にもつながることが期待できます。これまでも、透析患者、腰部脊椎管狭窄症患者、片麻痺患者、リュウマチ患者の方々から、「痛みが和らいだ」とか「快適に眠ることが出来る」などのご意見をいただいています。

5. メディマット® 使用法

メディマット® 使用方法

●フルサイズ(ベット用)

【コンビ型】(厚い8.5cmタイプ)

- ①ベット本体(架台)に直接メディマット®をのせます。
- ②メディマット®の上に通気性のあるシーツ、ベットパット、毛布などを敷きます。
通気性・透湿性のない防水シーツなどは、敷かないで下さい。

●車椅子サイズ

【車椅子フルサイズ】

- ①車椅子本体の座面にすべり止めを敷いて下さい。
- ②車椅子本体の座面と背もたれに沿ってメディマット®をのせてください。
- ③メディマット®をのせた後、安定したすわりが確保できている確認して下さい。
- ④不安定感がある場合は、すべりと目の位置を調整し、座面と背もたれの曲がりの部分を深く押し込んでください。

【車椅子ハーフサイズ】

- ①車椅子本体の座面にすべり止を敷いて下さい。
- ②座り位置とすわり感を確認して使用して下さい。

車椅子フルサイズ・ハーフサイズ(W485T)のメディマット®を使用する場合は、すべり止を使用して下さい。フルサイズ(コンビ、BF838T・BF918T)は、その必要はありません。

部屋の温度が低い場合、少し硬く感じる場合があります。その場合はあらかじめ部屋を暖めておくか電気毛布・電気敷布など(通気性のあるもの)を使用して下さい。

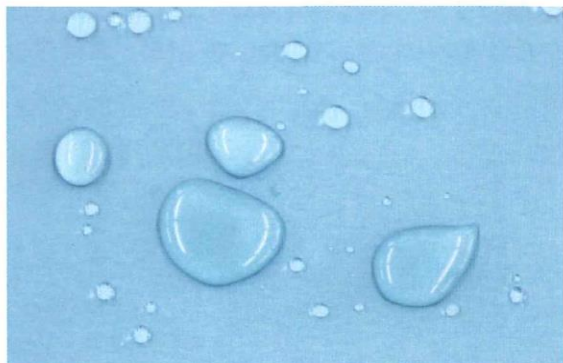
また、リュウマチ・筋萎縮症・パーキンソン病など、マットレスの硬さなどによる寝心地に敏感な方は、綿などの敷布や柔らかい厚手のシーツ(毛布・ベットパットなど)を使用してください。

ベット用メディマット®をベット以外、例えば畳の上、フローリング、あるいは床板などで使用する場合は、マットレス底面から出てくる水蒸気を吸収するようなもの(タオルケットなど)を敷いてください。このような条件で、同じ場所で長期間使用することは避けてください。

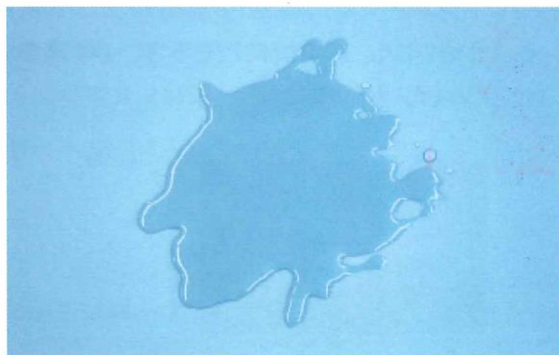
突発的な便・尿漏れなどがあった場合は、メディマット®の汚れた箇所をぬれたタオルできれいに拭きとり、アルコール等で消毒してください。

がっこな汚れの場合、あるいは汚れで撥水性が低下した場合には、カバーを洗濯してください。

(撥水性が十分な場合)



(撥水性が低下した場合)



メディマット®使用上の注意

マットカバー取り扱い上の注意

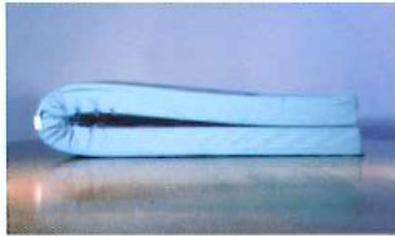
- 鋭利なものを押付けたりしないで下さい。
- タバコの火や高温になるものを近づけないで下さい。
- 撥水機能が低下した場合には、カバーを洗濯して下さい。家庭用の洗濯機で洗えます。
- 横のスカートの部分を強く引いたりしないで下さい。
- 消毒・殺菌には、オゾンガス、アルコール、ホルマリン液などが使用可能です。
- 汚れがこびりついた場合は、蒸しタオルで拭き取るか、歯ブラシなどで部分洗浄して下さい。
- 薬液、あるいは軟膏などの脂分がシミ状になってしまったときは、ドライクリーニングを行ってください。
- 持運び、ウレタンの挿入や取外しの際は、カバー脇のスカート部を強く引っ張らないで下さい。(縫製部に破損をきたす恐れがあります。)

ウレタンフォーム取り扱い上の注意

- 鋭利なものを押し付けしないで下さい。
- 難燃性素材ですが、タバコなどの火や高温になるものを近づけないで下さい。
- 直射日光をさけて保管して下さい。
- 洗浄する場合は、ビニール袋に水と洗剤を適量入れ、やさしくもみ洗いして下さい。
- 亀裂することがあるので、強く引いたり、つかんだりしないで下さい。
- 気温の低い(15℃以下)場所で、強く折り曲げないで下さい。亀裂や破損が生じることがあります。
- 折り曲げる場合は、黄を内側にし、オレンジが外側になるように折りたたんで下さい。カバーを開けて確かめる必要があります。
- ウレタンの破損、断裂が生じている場合は、内部ウレタンの交換を検討して下さい。ウレタン表面の小さな亀裂などは、継続使用に問題はありません。

メディマット®保管上の注意

マットレスは柔軟な素材を使用しているため、従来のウレタンマットレスではできなかった折り曲げが可能です。そのため、自由に計上を変えての収納、持ち運びが可能です。ウレタンフォームに亀裂や破損が生じる場合があります。折り曲げる場合は、必ず底面を外側になるようやさしく、2つに折にしてください(写真参照)。フルサイズ(コンビ、BF838T・BF918T)も同様にして下さい。



コンビ型の場合

保管する場合は、直射日光を避け、高温多湿の場所や極度に低温な場所での保管は避けて下さい。ウレタンフォームの変色・劣化が早まるおそれがあります。

メディマット®使用対象者

メディマット®はこれまでに下記の疾病に罹患している患者、さらに健康な人にも利用いただけます。

- 褥そう(床ずれ)患者 ●術中・術後患者 ●脊椎損傷患者 ●膠原病・リウマチ患者
- パーキンソン病患者 ●筋萎縮症患者 ●リハビリ患者 ●腰痛患者 など

6. メディマット®に関するQ&A

Q: メディマット®を試しに使うことができますか？

A: できます。メディマット®は基本的に1~2週間の使用後、購入するかどうか決めていただいています。試用がご希望の場合はご連絡ください。

Q: メディマット®を使用すれば褥そうはできませんか。

A: メディマット®を使用してケアが充分でなければ褥そうはできます。褥そうの予防及び治療のためには患者にあった適切なケア（栄養状態の改善、体位の変換、オムツの交換など）をすることが重要です。（コラム：褥そう発生のメカニズム参照。）

Q: 他の褥そう予防マットレスと併用しても良いですか？

A: 他のマットレスとの併用はメディマット®の特徴（カバーの防水・撥水性や透湿性、ウレタンフォームの適度な硬度など）を活かせないことになるので、メディマット®は単独で使用して下さい。

Q: メディマット®の上に何を敷いたら良いですか？

A: シーツ、タオルケット、毛布などの通気性のあるものを使用して下さい。通気性のないシーツの使用は、できるだけ避けていただき、横シーツとして、バスタオルあるいは透湿性のある「綿シーツ」などの使用をお勧めします。

Q: メディマット®には表と裏はありますか？

A: メディマット®には表と裏があります。e P T F Eラミネートカバー面（薄緑色）が表です。

Q: カバー（薄緑色）は、防水性ですか？

A: カバーは防水性です。尿や薬液はもちろんのこと、細菌類などもウレタンウフォームに浸透していきることがありません。ただし裏のポリエステル布に防水性はありませんので、正しく使用して下さい。

Q: 撥水性と防水性は違いますか？

A: 撥水性は水をはじく性質です。防水性は水を通さない性質です。撥水性だけの生地では水圧がかかると水が浸透しますが、e P T F Eメンブレンは耐圧性があるので水が浸透しません。

Q: カバーが防水だとムレませんか？

A: カバーはe P T F Eラミネートを使用していますので、防水性でありながら透湿性があります。1㎡あたり、24時間で6,000~7,000cc（J I S L 1099B法による）の水蒸気を透過させる能力があります。したがって汗で不快になることが少なく爽快です。

Q: ウレタンフォームに汗等の水分がたまることはないですか？

A: ありません。ウレタンフォームも水分が透過するように工夫されていますので、溜まることはありません。ただし使用条件によっては定期的な陰干しをすることをお勧めします。

Q:カバーが汚れたらどうすれば良いですか？

A: 乾いていなければ、まず、拭き取って下さい。その後、アルコールで2度拭きしていただければ、消毒の効果もあり、汚物等の臭いもなくなります。乾いている場合は、蒸しタオル等で柔らかくした後に良く拭き取って同乗の処置をしてください。
継続的に安心してご活用いただくために1ヶ月に1度、カバーをアルコールタオル等で清拭することをお勧めします。

Q:カバーは、洗えますか（頑固なシミなどは・・・）？

A: カバーは汚れたら市販の中性洗剤で洗濯して下さい。ただし洗剤（界面活性剤）が残っていると表生地の変水性が低下しますので、すすぎを十分にしてください。またカバーを構成してるe P T F Eメンブレンが傷つくので、絞ることはしないで下さい。がんこな油脂等がついた場合には、ドライクリーニングを行ってください。その後通常洗濯をすると効果的です。

Q:洗剤や汚れで目詰まりしませんか？

A: しません。通常の汚れは孔に侵入できないほど巨大で、さらにe P T F Eメンブレンには汚れに強い特殊加工が施されています。洗剤や脂は生地になじむ可能性はありますが、裏までは到達しませんし、洗濯することで除去できます。

Q:カバーは定期的に洗う必要がありますか？

A: 長期間使用していると、どうしても皮脂などの付着により、浸透性が低下する場合があります。それを防ぐために、定期的な洗濯をお勧めします。

Q:撥水性が低下しても水が漏れませんか？

A: 漏れません。たとえ撥水性が低下しても、防水機構は維持されますので漏れることはありません。

Q:カバーの撥水効果はどれくらい保持されますか？

A: 撥水性は生地の表面に塗布されているものによって維持されているために、洗濯などに低下します。工業試験(JIS L 1092法)の結果、家庭洗濯50回ぐらいで撥水効果が薄れてきます。再び撥水効果を持たせるには市販の防水(撥水)スプレーを使用することも可能ですが、詳細についてはご相談ください。

Q:ウレタンフォームは洗えますか？

A: 洗えます。ビニール袋に水と洗剤を適量入れ、やさしくもみ洗いしてください。ただし、乾燥するのに時間がかかります。枕ぐらいの大きさのものを洗い軽く脱水した場合、乾燥前の重量に戻るのに、室温(25℃)放置で30時間、70℃オープン内で7時間かかりました。できれば専門の洗濯業者へ相談することをおすすめします。

Q:ウレタンフォームはへたりにませんか？

A: 特殊ウレタンフォームを使用しているためにへたりは比較的少ないと言えます。工業試験(JIS L 0217 103法)の結果、10回の洗濯後でも、硬さや寸法の変化はわずかで、亀裂等の発生も認められませんでした。

Q: ウレタンフォームが汗などの水分で加水分解を起こしませんか？

A: ウレタンフォームは一般的に加水分解しやすいのですが、メディマット®のウレタンフォームは、加水分解が起こり難いものを使用しています。

Q: ウレタンフォームにカビは生えませんか？

A: 雑菌等を通さないカバーを使用していますので、内部のウレタンフォームにもカビは繁殖し難いです。カバーに開いた穴からあるいは他の原因ウレタンフォーム層に雑菌が入るとカビが生えることがあります。

Q: 布団乾燥機は、使えますか？

A: 使えます。ただし乾燥温度は70℃以下に保ってください。

Q: メディマット®は他社のマットレスに比べて少し硬いようですが、理由を教えてください。

A: 特殊ウレタンフォームと伸縮しないカバー（e P T F E）により、柔らかくなりすぎないように工夫されています。この結果、十分な局所の耐圧分散効果を持ちながら、姿勢の保持や体位の変換が行い易いというマットレスになっています。

Q: 直射日光に当てても大丈夫ですか？

A: カバーは大丈夫ですが、ウレタンフォームは紫外線で変色する恐れがあります。従って、カバーを外してウレタンフォームを直射日光に当てることはしないで下さい。

Q: 季節によってウレタンフォームの硬さは変わりませんか？

A: ウレタンフォームは気温が低いと硬化します。硬化しても人間の体温により人体との接触面は10分ほどで通常の状態に戻ります。室温が18℃以上であれば硬化しなと言えます。

Q: 背上げをしても良いですか？

A: 問題ありません。背上げは、一般的なマットレスと同様にお考え下さい。

Q: メディマット®を使用するとベッドの高さが高くなりませんか？

A: メディマット®の厚さ分だけ高くなります。ベッドからの移動の際などに支障がないように、ベッドの高さを調節する、あるいは安定した足台をおくなど安全面に配慮して下さい。

Q: 一般の布団代わりに使用できますか？

A: 使用できます。快適な寝心地が期待できます。ただし、メディマット®は透湿性があるので、床に直接置くと床が水分で漏れる可能性があります。ベッドでの使用をお勧めします。

Q : オムツを着用した患者さんの褥そうが治らず、メディマット®の効果が見られませんが？

A : メディマット®には透湿性があり、褥そう患部の湿度が適度に保たれることが治療効果の一員と考えられます。ただし、オムツに透湿性がないと、このメディマット®の効果も活かせませんので、オムツも透湿性のあるものに変えてみてください。現在、紙オムツは、通気性や透湿性があるものが市販されていますので、メディマット®との組み合わせには適しています。また、オムツカバーも e P T F E を使用して透湿性を持たせた商品があります。

Q : メディマット®使用后、背中や褥そう周辺が赤く（発赤）になりました。どうすれば良いですか？

A : 経過を観察して下さい。発赤の原因は皮膚の血流が改善しているためと考えられます。これまでの経験では、ほとんどの例において数日間で発赤は消失しています。それでも発赤が消失せず病態が悪くなるようでしたら、メディマット®の使用を中止して下さい。

Q : メディマット®はどれくらい長持ちしますか？

A : メディマット®の耐用年数は5年を想定しています。5年経過したら特にウレタンフォームを点検（ヘタリ、亀裂、劣化など）してください。

Q : メディマット®のカバーだけあるいはウレタンフォームだけ買い換えられますか？

A : 交換販売には応じますのでご相談ください。

Q : 特別な用途のメディマット®は製造可能ですか？

A : 基本的には出来ません。